



助成事業の認知・理解をひろげるため、学会大会でランチョンセミナーを開催

## 助成事業の認知と理解、 共感の輪をひろげる ランチョンミーティング。

2007年度に開始したYMFSスポーツチャレンジ助成は、2026年度に第20期生を迎えた。20年にわたる歩みの中で、この制度により支援したチャレンジャー(助成対象者)は、体験/研究合わせてのべ561人(件)にのぼる。現在では、かつてのチャレンジャーの中から複数の審査委員が誕生するなど、助成事業は人材の循環を生み出すことで事業の継続性と厚みを高めている。

助成事業のさらなる拡充を目指して、新たな取り組みも始まっている。学会大会におけるランチョンセミナーの開催もその一例。事業継続・発展のために重要なステークホルダーの一つである学术界に対し、YMFSスポーツチャレンジ助成の認知を拡げ、その独自性に対して理解・共感を深めていただく施策としてランチョンセミナーに着目した。

2025年度は、日本体育・スポーツ・健康学会と、日本体力医学会大会の2会場で当財団主催のランチョンセミナーを開催し、スポーツチャレンジ助成のOBが研究成果を発表した。日本体育大学世田谷キャンパスで開かれた日本体育・スポーツ・健康学会では、会場が定員いっぱいの150人で埋まり、座長の伊坂忠夫審査委員長長の講演や、OBチャレンジャーの阿部衛さんと三谷舜さんの研究発表が行われた。また聴講者の中には多くのOB・OGチャレンジャーも含まれ、近況を報告し合うなど交流を深める機会ともなった。

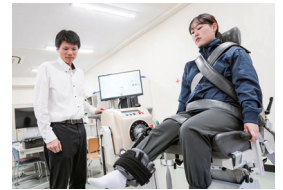
セミナー開催後には聴講者へのアンケート調査を行い、その成果を分析。YMFSスポーツチャレンジ助成への認知・理解が進展するなど成果が見られたことから、2026年度以降も継続的な開催を計画している。

# 2025/2026 令和7年度

100周年を迎えたデフリンピックが初めて日本で開催され、大会を通じて多様性や共生について考える機会が広がった。MLBでは大谷翔平選手をはじめ日本人選手が活躍し、ワールドシリーズでは山本由伸投手がMVPに輝いた。またW杯を一年後に控えたサッカーでは、史上初めてブラジルに勝つなど強豪相手に快進撃を見せた。

### チャレンジ支援事業

新年度のチャレンジャーに30名を選考。成長プロセスを重視するサポートプログラムによって、それぞれの夢・目標の実現を支援した。



#### ■ 2025年度(19期生)助成概要

	申請数	採択件数	助成金額
体験助成	53件	15件	1,480万円
研究助成	28件	15件	1,331万円
計	81件	30件	2,811万円

#### ■ 第18回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞



安田 享平 氏  
ガイドランナーの第一人者として  
競技力向上と、伴走文化の浸透・拡大を牽引

### スポーツ体験促進事業

#### ■ ジュニアヨットスクール葉山

新年度は9名のスクール生でスタート。通常講習に加え、規律のある集団行動を体験する4泊5日の浜名湖夏季合宿等を実施した。

#### ■ セーリング・チャレンジカップIN浜名湖

第34回大会は、OP初級、OP上級、ILCA4級、ILCA6級の4クラスを開催。全国から19団体・59名(艇)が参加した。



#### ■ 全国児童 自然体験絵画コンテスト

全国から5,580点の作品応募があり、入賞作品23点と入選作品330点を決定した。入賞作品はジャパンインターナショナルポートショーや、国立オリンピック記念青少年総合センターで展示・公開した。

#### ■ スポーツ教材の提供

316件の応募の中から、厳正な抽選により、当選した120の幼稚園、学校、団体にポッチャボールセット、タグラグビーセットを提供しました。

#### ■ ユニバーサルスポーツ体験会

ユニバーサルスポーツ体験会「チャレンジ! ユニ★スポ」を静岡県内の小中学校11校で開催。児童・生徒、教員合わせて542人が参加した。

#### ■ 調査研究

2019年から取り組んだ「障害者スポーツ選手のキャリア調査」、100人のインタビュー調査研究の総括として「障害者のスポーツキャリアを考える」(執筆責任者・藤田紀昭)を発売。2026年3月には、公開シンポジウム「障害者のスポーツキャリアを考える」を開催した。

